日刊 建設工業新聞 8/27 水曜日 2008年(平成20年)

「廃墟」で怪談

築80年の九段下ビルが効果

真夏の夜に廃虚で怪談ー。東京・神保町にある「九段下ビル」で22日、講談師の一龍斎貞水さんによる怪談の公演が行われた＝**写真、鈴木忍氏撮影**。同ビルは昭和初期の1927年に竣工した老朽建築物。この一部を借りてイベントスペースとして利用している建築関係のデザイン事務所「領域探査デザイン」が主催した。

貞水さんは、02年に重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された講談界の大看板真打。ライトアップや音響などを交えて演じる怪談物が関心を集め、「怪談の貞水」と呼ばれる。「80年の歴史がある建物と、貞水さんというすごい存在が対峙（たいじ）する」（主催者の新藤典子さん）イベントで、50枚弱のチケットは即座に売り切れたという。

人間国宝・一龍斎貞水さん

当日の演目は「真景累ケ淵」。自分を殺害した夫やその再婚相手らを恨む主人公・累の怨念（おんねん）をテーマにした作品で、日本三大怪談の一つにも数えられる。築80年を超す古びたコンクリート建築物が持つ情景が怪談を一層引き立てた。公演後、貞水さんは「お客さんとやっている側がお互いに楽しめた。建物も含めて良い舞台だった」と話した。